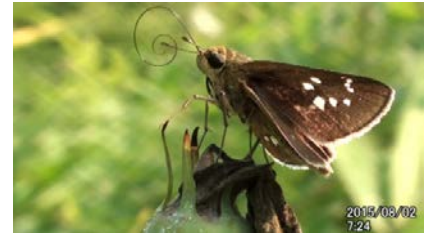
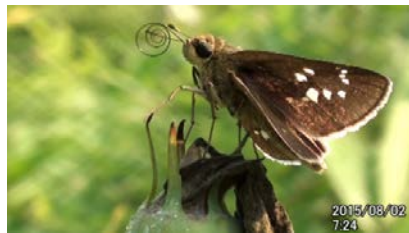


Aug. 2, 2015：岡山の高原草地

ミヤマチャバネセセリは「加古川のチョウ」図鑑を作成すると決めたとき、加古川市近郊でも観察できる種だと知ったが、本種にとってもよく似たオオチャバネセセリとの出会いを果たせて以降、なんとしても会ってみたいチョウの一つとなっていた。そんな矢先、ゴマシジミを撮影に行こうとの蝶友の誘いで訪れた、岡山の高原草むらで、いとも簡単に本種が活発に飛び回る光景に出会う。本州、四国、九州に分布し、その地域でならどこでも見られるというわけではなく、むしろ見る機会が少ない稀なチョウで、この日の岡山の草原は、貴重な多産地という印象を受けた。幼虫の食草はイネ科のススキ、チガヤ、ヨシ、アブラススキなどだとされており、元牧草地であったと思われるこの深い草原は、本種にとってとてもいい生息環境なのだろう。こうした自然はいつまでもそのまま残ってほしいものだ。



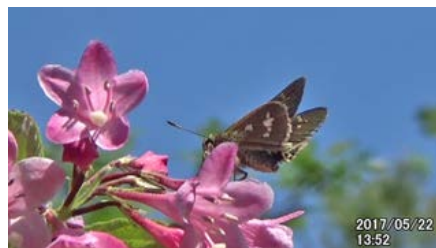
May 17, 2016 兵庫県宍粟市の溪谷

本格的な雨のあと好天気になるとチョウが飛び遊ぶ習性に期待して、タニウツギが咲く山岳部の溪谷へと遠征。蝶友が教えてくれた溪流沿いのあちこちにタニウツギが咲き、期待通り黒系アゲハが複数頭舞っている。広く開けた湿り気の残る原っぱでは、ミヤマチャバネセセリが楽し気に吸汁をしていて、長いストローをいっぱいにのぼして、実に器用に吸汁をする様子は見飽きない。



May 17, 2017 兵庫県宍粟市の溪谷

昨年は路面の湿り気のある場所で吸汁をしていたミヤマチャバネセセリが、今日はタニウツギの花へと飛来する。時間をおいて再び訪れたのはたぶん同一個体だと思われ、わずかに翅表



をみせてくれたあと、どこかへと姿をくらます。